

# 雲雀っ子

令和6年6月18日発行

ねばり強く やりぬく子 ・自分で考える  
・仲間と助け合う  
・最後までやりきる



## 学校の生活をよりよくする活動を考える6年生の姿

校長 奥村 美樹恵

5月29日(水)は、前日の大雨でスポーツフェスティバルの開催が心配されましたが、大変天気もよく爽やかな1日でした。子ども達も頑張って取り組んできた成果を発揮したり、仲間を精一杯応援したり、大変生き生きとした姿が見られました。全校の子ども達がこのように全力で臨めたのも、当日の朝、5,6年生の子ども達が、グラウンド整備や準備を一生懸命頑張ってくれたからです。前日のリハーサルも雨で実施できず、きっと5,6年生は不安だったと思いますが、早朝よりグラウンドに集まり、担当の教師と念入りに打合せを行い、動きを確認していました。いざ始まると、全校をリードして進んで動いたり、下学年へ呼びかけ、指示をしたり、てきぱきと動く5,6年生の姿が沢山見られました。素晴らしい姿でした。



このように、高学年が学校のために、全校のみんなのために、生活をよりよくするために様々な活動を考えています。

■スポーツフェスティバルにて、6年生 大塚瞳さん、岩本咲々さん、西村凜香さんが「全校の皆で楽しみ、盛り上がる種目を企画したい」と、全校お楽しみ企画として綱引きを計画しました。短い期間で、全校の皆が安全に楽しく行うためにはどうしたらいいか自分達でルールを決め、その後児童議会にて、代表運営委員から「全校を動かすには、それだけの時間では難しいよ」「少しでも時間のロスを減らすためには、こうしたらどうかな」とアドバイスをもらったり、質問を受けたりし、何度も練り直しました。いろんな人たちの意見を参考にして、初めてお楽しみ企画がスポーツフェスティバルで実現しました。当日は200人越えの子ども達が参加し(対象は300人ほど)、勝ち負け関係なく、皆で力を合わせ、声を合わせ、力いっぱい綱を引き、楽しく行うことができました。



■「大谷グローブ」の活用を運動生活委員の出町隆太さんが中心となり、委員会の皆と相談をしたり、仲間の協力を得たりしながら考えています。昨年度末に、本校にも大谷グローブが届きました。6年生から順に各学級で使えるようグローブを回していきましたが、十分な活用ができず、再度使えるようにしてほしいという要望が下学年からありました。そこで、出町さんはこのグローブの使用を楽しみにしている人たちのために動きだしました。まず自分が仲間とグラウンドでグローブを使って遊んでみて、「他の遊んでいる人たちとぶつからないように、グローブを使って遊ぶ場所を決めよう」「もっと場所を広く取った方が安全だよ」と、実際にやってみて、分かること、見えてくることを基に、遊び方を決めていました。出町さんのこだわりは「全校のみんなが安全に遊べること」だそうです。「自分だけが楽しいでは、危ないからできないなあ…」と常に全校の仲間のことを考えています。何度も何度も委員会で話し合いをし、自主的に昼休みを使ってよりよい遊び方を考えています。一つのことを決めるのは簡単ではなく、時間がかかる。でも、それだけのこだわり、つまり「全校の皆が安全で楽しく遊べること」を大事に企画してくれているので、きっと誰もが納得できる提案をしてくれることでしょう。楽しみです。

高学年として他者へ思いを寄せたり、広い視野で物事を見たり、考えたりすることを、こういった活動の中で身に付けています。自分だけが楽しいのではなく…といった考え方は相手を思いやり、尊重している証拠です。子ども達には色々な経験を通して、人として大きく成長してほしいと願っています。

### 子ども達の「チャレンジ」取材しています

今年度子ども達に願うこととして3つ、始業式で話をしました。その中の1つ、『「チャレンジ」を通して「わかった」「できた」をふやそう!』について、子ども達の「チャレンジ」取材しています。

今頑張っていること、頑張っているチャレンジしてできるようになったこと等、動画を撮り、那加二っ子絆チャンネル(YouTube)にて紹介します。準備が整いましたら、スマート連絡帳のメールにてお知らせします。どうぞ、ご期待ください。

#### 1 「チャレンジ」を通して 「わかった!」「できた!」をふやそう!

- 「これ、きょうみあるなあ」 ⇒ やってみよう!
- 「できるかな?」 ⇒ まずはやってみよう!
- 「なんてかな?」「どうしてかな?」 ⇒ 自分で調べてみよう!
- 「なかなかうまくできないなあ」 ⇒ 何度も何度もくりかえしやってみよう!
- 「一人じゃうまくできないなあ」 ⇒ なかまと力を合わせてやってみよう!



合い言葉は「やってみよう!」

最長子

見まもり隊の皆様